

がん医療相談だより

No.53 平成28年9月号



今月のお話

広島大学病院 血液内科 教授・診療科長
一戸 辰夫



皆さん、こんにちは。血液内科では「血液がんをやさしく治す」をキーワードに日々診療サービスの満足度改善に努力していますが、まだまだ皆様のご要望には十分にお応えできていないと感じています。患者さんに安心して治療を受けていただくためには、診療科内の自己点検機能を高めるとともに、さまざまな病院内資源を利用してチーム医療の質を向上させることが必要です。その一環として、私が広島病院にあればいいな、と常々考えているものに「患者&家族支援プログラム」があります。このコンセプトと私がはじめて出会ったのは、米国のがんセンターに新しい細胞移植法の研修に出かけていた時のことです。どこの施設の玄関を入っても、すぐに目につくのが「患者&家族支援センターはこちら」という案内表示と患者さんを支援するボランティアグループの掲示板であり、何より患者さん・ご家族が第一という立場を世界最先端の医療施設が明確にアピールしていることに強い感銘を受けたことを覚えています。案内につられてセンターに入ってみると、そこにはゆったりとした落ち着いたスペースが広がっており、多くの相談員が映像資料やわかりやすいパンフレットを使って、熱心に患者さん・ご家族と話をしていた姿がとても印象的でした。インターネットをお持ちの方は、ぜひ英語で「patient & family support」と入れて検索してみてください。

血液がんの治療法は、従来より副作用の少ない抗体医薬品や分子標的薬の登場以降、かつてと比べて大きく様変わりしており、多くの治療は普通の生活を続けながら、外来で受けていただくことが可能となっています。その一方、短い外来診察の時間だけでは十分に伝えきれない情報が増えてきていることも事実であり、ぜひ、がん相談支援センターや病院の他部門とさまざまな連携をしながら、皆さんに「納得のいく」治療を受けていただけるように全力で努力していきたいと思います。そして、遠くない将来、がん相談支援センターがさらに大きく発展して、海外の「患者&家族支援センター」を凌駕するような素晴らしいサービスセンターになることを夢見ています。



患者サロンのご案内

前回のサロン（8月18日）の内容
がん治療と食事と栄養について、管理栄養士 岡壽子さんのお話でした。手術療法、放射線療法、化学療法などがん治療に伴う副作用には、個人差がありますが、生活や治療を続ける上で、食事のことは大切な問題です。困ったときは、一人で悩まず、医師や看護師に相談しましょう。（参加者の感想をご紹介します。）

良いと思っていたものとそうでないものが逆だったり、勉強になりました。

たのしく食べる8カ条を見て、無理せず食べたいものを食べていいことがわかってよかったです。

今後のサロン

平成28年10月20日（木）13:30~14:30
臨床管理棟 3階「3F2会議室」
「皮膚がんの基礎と治療について」
皮膚科医師 河合 幹雄



今月のおすすめ

手話通訳・要約筆記があります

『がん診療連携拠点病院共催 市民講演会のお知らせ』 -知ろう・学ぼう がんと心のケア-

2016年10月30日（土） 13:30~15:45（受付開始12:30）
広島県民文化センター 入場無料 先着500名
申込み方法：はがき・FAX・WEB・Eメール
参加ご希望の方は、がん医療相談までご連絡ください。

司会：板本 敏行 県立広島病院 副院長

講演：田村 直美 広島赤十字・原爆病院 緩和ケア認定看護師
「がん相談員による心のケア」
安食 美蒼 県立広島病院 臨床心理室 臨床心理士
「不安に向き合う心」
内富 庸介 国立がん研究センター中央病院
支持療法開発部門 支持療法開発部門
「がんを抱えた時の心構え」



がん医療相談（がん相談支援センター）

連絡先 082-257-1525
相談日 月～金曜日（外来休診日除く）
時間 9:00～17:00
相談方法 電話相談
来室による相談
料金 無料

がん医療相談（がん相談支援センター）案内図

